

カチオン系下地調整塗材 JIS A 6916 建築用下地調整塗材(C-1)

DIA

ダイヤ カチオンフィラー

F☆☆☆☆

新装・改装において優れた仕上りを実現する付着力抜群の特殊カチオン系セメント下地調整塗材です。

■ 特 長

- 強力な付着力と優れた下地調整効果で新築にも改装にも幅広く使えます。
標準の刷毛塗り以外にローラー、コテ、ヘラ付け、吹付けも可能。仲介接着材として下地、仕上材によく馴染み、効果を発揮します。
- 充填性がよく吸水調整効果を高めます。
ALC、コンクリートブロック、軽量PC板等の多孔質下地の目止め充填に優れ脆弱な下地を強化、均質化すると同時に吸水調整効果も高めます。
- 刷毛塗り程度の薄塗りでもドライアウトしにくい下地調整塗材です。

■ 用 途

荷 姿:30kgセット(主材:20kg/硬化液:10kg)

| 対象下地 | 効果 | 仕様 | 仕様 |
|--|--------------------------------------|--|-------------------------------|
| 合板型枠コンクリートの荒れた面 細かい気泡穴の多いコンクリート モルタルやコンクリートの割れ | 下地調整 充填補修 | カチオンフィラー カチオンフィラーパテ カチオンフィラーモルタル | 刷毛・ローラー・吹付 コテ・パテベラ コテ塗り |
| モルタルやコンクリートの 比較的小規模な不陸、目違い、巣穴、段差 | 補正・補修による下地の平滑化 | カチオンフィラーパテ カチオンフィラーモルタル | コテ・パテベラ コテ塗り |
| ALC/パネル コンクリートブロック | 表面を均一に充填調整する 吸い込みを抑える 脆弱層を強化する | カチオンフィラー カチオンフィラーパテ カチオンフィラーモルタル | 刷毛・ローラー・吹付 パテベラ コテ塗り |
| セメント系仕上材の改装下地 合成樹脂エマルジョン系仕上りの改装工事 | 脆弱層の下地抑え 仕上材との接着効果 | カチオンフィラー カチオンフィラーパテ カチオンフィラーモルタル | 刷毛・ローラー・吹付 コテ・パテベラ コテ塗り |
| 吹付けタイル、吹放しコンクリート 洗い出し仕上げ、小叩き仕上げ等の改装 | 仕上材との接着効果 充填調整 | カチオンフィラー カチオンフィラーモルタル | 刷毛・ローラー・吹付 コテ塗り |

※その他、石膏ボード、ケイ酸カルシウム板の下地調整にも適応します。
※吹付け工法、パテ、モルタルはJIS対象外です。

■ 性 能

| 試験項目 | 試験条件 | 成績 | 試験方法 | |
|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|---|-----|
| 軟度変化 | ±20%以下 | 5 | JIS A 6916による | |
| 耐ひび割れ性 | ひび割れがないこと | 異常なし | | |
| 耐衝撃性 | ひび割れ及び剥がれがないこと | 異常なし | | |
| 吸水性 | 2.0g以下 | 0.8 | | |
| 付着強さ | 標準養生 | 0.7N/mm ² 以上 | | 1.4 |
| | 低温養生 | 0.5N/mm ² 以上 | | 1.0 |
| 耐久性 | 0.7N/mm ² 以上 | 1.2 | JIS A 6909標準養生による モルタル板にカチオンフィラーを刷毛塗りし 1日養生後各種仕上材を塗布する。 | |
| 仕上材との付着強度 (N/mm ²) | 薄付け仕上塗材 | 1.5 | | |
| | 厚付け仕上塗材 | 1.3 | | |

ダイヤカチオンフィラー

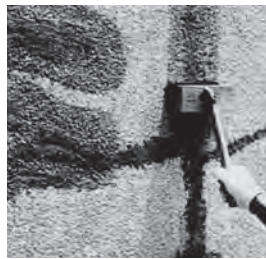
施工工程

| 工程 | 材料工程 | 希釈割合 | 所要量 | 塗回数 | 乾燥時間 |
|----|------------------------|---|--|-----|--------|
| 1 | 下地調整 | ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。 ②雨上がり後は均一に乾いてから施工して下さい。 ③豆板、木コンパ、破損箇所、不陸、目違い、ひび割れ、気泡穴等はカチオンフィラーモルタルで補修して下さい。 | | | |
| 2 | ダイヤカチオンフィラー 刷毛・ローラー | ダイヤカチオンフィラー 主材 硬化液 清 水 | RC等 0.6kg/m ² 50m ² /バケツ ALC 0.67kg/m ² 45m ² /バケツ 改装面 0.6~0.75kg/m ² 40~50m ² /バケツ | 1 | 24時間以上 |
| | ダイヤカチオンフィラー 吹付け | ダイヤカチオンフィラー 主材 硬化液 清 水 | 0.7~1.0kg/m ² 30~42m ² /バケツ | 1 | 24時間以上 |
| | ダイヤカチオンフィラー パテ | ダイヤカチオンフィラー 主材 硬化液 清 水 | 適量 | 1 | 24時間以上 |
| | ダイヤカチオンフィラー モルタル | ダイヤカチオンフィラー 主材 硬化液 珪砂6・7号 清 水 | 適量 | 1 | 7日間以上 |

下地の前処理

※吹付、パテ、モルタル工法はJIS対象外です。

- ①コールドジョイントや雨漏りの可能性のあるひび割れはあらかじめ防水処理をして下さい。例えば、Uカット後ポンドプレーカーまたはバックアップ材を底部に挿入し、次にシーリングを充填し、ダイヤカチオンフィラーモルタルで平滑して下さい。
- ②下地の突起、レタンス、または型枠の影響や凍結による硬化不良等となった部分はワイヤブラシやケレン棒で除去して下さい。
- ③下地表面に露出している番線や釘などは除去するかセメンシヤス#2000またはエポキシ系錆止め塗料で防錆処理をして下さい。
- ④旧塗膜等はサンダー等で目荒してから施工して下さい。



調合方法

- ①硬化液はよくかき混ぜて均一にしてから使用下さい。
- ②硬化液10kgに清水3~5%と主材20kgを加えて、ペースト状になるまで混練して下さい。
- ③さらに残りの清水を徐々に加えながら塗りやすい粘度に調整して下さい。尚、この時清水を加えすぎると本来の接着力を発揮しない場合がありますので、加える量は厳守して下さい。

施工方法

- ①施工は腰の強い左官刷毛、中毛ローラー、ジュラクガン、リシンガン等で行って下さい。
- ②細かい気泡穴の多い下地に吹付け施工を行う場合は、材料が気泡に充分充填されるように吹付け直後、刷毛でこいて下さい。
- ③シリコン系シーリング材の上には完全に接着しないので使用できません。
- ④溶剤系2液反応硬化型塗材の下地調整材としては使用できません。施工する場合はダイヤセメントフィラーをご使用下さい。
- ⑤ダイヤカチオンフィラーは混練すると強アルカリ性になります。施工の際には眼鏡等で目を保護して下さい。

注意事項

【塗装面の調整（新設）】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下（pH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要で、雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ③コンクリート表面のチョーキング、風化層、汚れ、及び苔などは、ワイヤブラシで取り除いてから施工して下さい。
- ④ひび割れ、気泡穴、豆板、木コン、破損箇所、不陸などは、ポリマーセメントペースト又は、ポリマーセメントモルタルにより補修して下さい。

【塗装面の調整（新設・改修共通）】

- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整（改修）】

- ①各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行って下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開缶、開袋した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や湿度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
- ③材料は直射日光を避け、雨や雪のからまない湿気の少ない所に保管し、床に直接置かないようにして下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないよう注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残りパリとなります。
- ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
- ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
- ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
- ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- ⑨本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりが見えないよう確認して下さい。
- ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄過ぎるときれいに仕上らないことがあります。
- ⑪施工時結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑬塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑭フッ素や無機系などの難接着塗料が塗られている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
- ⑮可使用時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。

- ⑯使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑰水を加えすぎると本来の強度を発揮しない場合があります。所定の希釈量を厳守して下さい。
- ⑱冬期の施工で表面に白華が生じた場合、デッキブラシ、ワイヤブラシなどで取り除いて下さい。

【安全衛生上の注意】

- ①カチオンフィラーは、強アルカリ性ですから目に入らないように眼鏡などで保護して下さい。
- ②カチオンフィラーは、強アルカリ性ですから目に入らないように眼鏡などで保護して下さい。
- ③カチオンフィラーは、強アルカリ性ですから目に入らないように眼鏡などで保護して下さい。
- ④カチオンフィラーは、強アルカリ性ですから目に入らないように眼鏡などで保護して下さい。
- ⑤カチオンフィラーは、強アルカリ性ですから目に入らないように眼鏡などで保護して下さい。
- ⑥カチオンフィラーは、強アルカリ性ですから目に入らないように眼鏡などで保護して下さい。
- ⑦顔て飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切った後は、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

【その他】

- ①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
- ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点は仕様書等をご確認下さい。
- ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点は安全データシート(SDS)をご確認ください。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

(24.2月現在) 24.02.500 SJ